

議員 市民の防犯パトロール活動と安全ステーションの設置等によって、犯罪発生件数が大幅に減少してきている。道満グリーンパークを有する美女木地域に、彩湖・



▲バスステーションを防犯の拠点に

旧道満 バスステーション施設に 安全ステーションの設置を

手塚 静枝 議員

事務所の既存施設を活用して、防犯の拠点となる市直営の安全ステーションを開設させることはできないか。

総務部長 既存の施設を利用しての市直営の安全ステーションの新設については、地域の方々の要望や予算を踏まえて検討していきたい。また、警察庁公募モデル事業に、地元地域が応募された際には、防犯活動の拠点として活用を検討していく。

議員 その他に考えられる支援策は。

総務部長 蕨警察署によるビックバン・パトロールの拠点にするとか、さまざまな防犯に関する支援をしていく考えである。

奨学金制度の見直しを

議員 本市は、進学に必要な資金の貸付制度があるが、申請要件で適用されない方が大勢いる。入学準備金の保証人の居住地拡大や、奨学金の保証人所得制限の考え方などを見直し、より多くの方が利用できる制度にしたい。ご意見を伺いたい。

教育長 入学準備金の連帯保証人の居住地の拡大については、今後、より市民が利用しやすい制度を目指し、市外の該当区域を検討し、また、奨学金の所得制限の考え方についても、本制度のあり方等、全体的な制度面など、選考委員会の意見を聞きながら、対応を検討していく。

上戸田川事業の 進捗状況は

榎本 守明 議員

議員 二枚橋架替工事等が集中的に行われ、工事現場周辺道路が大変混雑している状況である。沖内会館南側交差点付近では人の往来も多く、交通量もだいぶ増えた。具体的な交通対策は。

都市整備部長 啓発看板を増設し、停止線用自発光も検討するとともに交通誘導員を増員する。今後の対策は。

議員 市役所南通り佐竹化学前の上戸田川に架かる柵渠の脇の陥没等への今後の対策は。

都市整備部長 柵渠の老朽化が著しく、非常に危険な状況のため、緊急性の高い対応が必要と判断している。応急的な工事にて対処していきたい。

議員 上戸田川の堰の上流部では、浄化施設設置前と同様、汚泥等が堆積しているが、その対策は。

都市整備部長 今後は定期点検時などに、堰を転倒させて堆積物を堆積させないようにするとともに、将来に向けては河床部をコンクリート工にて整備し、汚泥が堆積しにくい構造にかえることも一つの方策と考えている。

議員 本市は今後も区画整理事業が進むとともに、調整池を設置していくが、上



▲上戸田川に浄化施設を建設中（天神橋付近）

戸田川の流域293ヘクタールのうち、122ヘクタールは上流の蕨市であるので、蕨市の調整池の整備が必要と考える。現在蕨市の調整池の整備進捗状況は。

都市整備部長 蕨市錦町における下水道雨水計画では3万7000m³の雨水調整池が必要であり、現在1万2100m³整備され、残り2万4900m³は富士見野球場の地下に整備することになっている。引き続き早期の整備を蕨市に願っている。

一般質問

マンションなどの 中高層建築物の 高さ制限は

馬場 栄一郎 議員

議員 平成17年に施行された「中高層建築物等の建設に係る紛争の防止と調整に関する条例」に基づく、調整事案は発生しているのか。

都市整備部長 紛争調整の申出件数は現在まで2件である。紛争に至らないまでも、高層建築物の建築による日照、通風、眺望、圧迫感に関する意見や要望が多く、事業主との話し合いで建築の階

数を1層分低くして変更に至ったケースもある。

議員 お隣の和光市と同じく「高度地区」を活用した住宅地区の建築物の高さ制限を行う考えがあるか。

都市整備部長 住民の良好な生活環境や優れた景観の保全を図り、建築物の高さを巡る紛争を未然に防ぐため、建築物の高さに関する公的ルール



▲住みよい環境のために公的ルールを

を定めることは、大変有効であると考え。本市として、「高度地区」の活用が図れるか検討していきたい。

「観光」の切り口でPRと地域経済振興を

議員 本市にはポートコースや道満グリーンパーク、戸田橋花火大会などの観光資源があり、毎年多くの来訪者がいる。しかし、市内外に対し施設や行事のPRができていないし、地域経済振興につなげていない。「観光」というポジションを確立し、施設やイベントを観光資源として活用し、地域活性化や産業経済の発展につなげられないか。

市民生活部長 本市は観光地ではないが、観光資源を効果的に活用し、愛される魅力あるまちづくり、にぎわいのあるまちづくりを推進していく。

七かききだい

いじめ問題の実態は

召田 厚 議員

議員 ①この問題が大きくなり上げられるのは、文部科学省による指導、教育委員会による実態調査に対し、市民が不安に思っているからである。文科科学省の基準による調査ではなく、子どもの視線に立った実態は。

②目の前で起こっているいじめ問題への、学校やクラス、部活、教育委員会の取り組み、対応は。

③家庭との連携、特にいじめている側の家庭との連携が重要だと思いが、

教育部長 ①本市におけるいじめの発生状況は、小学校16件、中学校51件で、昨年と比べ小学校は6件、中学校は41件の増加である。②学校、各機関が情報の共有化を図り、一つ一つのいじめに対し一体となって取り組んでいる。③定期的な個人面談や家庭訪問により実態把握に努め、いじめをした児童、生徒に対し学校と家庭が

保護者に対する状況説明、その後の指導は。④本来教員が子ども達と接する時間が長ければ長いほど実態を把握することができると思いますが、教職員のスリム化の検討は。⑤教育委員会の方向性は、教育委員会による調査研究により進められていると思いが、教育委員会による実態の把握は。



▲子どもに密接した指導を

④「戸田市学校スリム化研究委員会」を設置し、現在研究中である。⑤教育委員会を通して情報を得て対応している。**議員** 市長、教育長より子ども達にメッセージを。市長 自信が持てることを見つけ、自信を持って生きてほしい。教育長 環境を整えるので、一人で悩まず話してほしい。

※ 柵渠=コンクリート等で整備された排水路

※ ビックバン・パトロール=住民、警察、行政が一体となって行う地域の犯罪を防ぐためのパトロール